

新型コロナワクチン接種を検討されている
5歳以上のお子さまの保護者の方へ

新型コロナワクチン コミュニティについて



監修 **森内 浩幸** 先生

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 小児科学分野 教授

お子さまへの新型コロナワクチン接種について

(お子さまとも話し合ってください)

接種するメリット(期待できること)とデメリット(不安なこと)を考慮いただき、お子さまのワクチン接種についてご判断ください。

新型コロナワクチン接種のメリットとして、感染症の発症を防げる可能性があげられます。一方、デメリットとしては副反応や安全性の面でワクチンに対する不安を感じられる方もいらっしゃいます。

こうしたワクチン接種のメリットとデメリットについては、お子さまのかかりつけ医とも相談し、十分な説明を受けてください。もしお子さまに基礎疾患がある場合、新型コロナウイルス感染症を発症すると重症化する恐れがありますので、積極的に接種を受けたほうがよいと考えられます。

お子さまとも話し合い、納得した上で、接種を受けるかどうかご判断ください。

● ワクチン接種のメリット

- 新型コロナワクチンは新型コロナウイルス感染症の発症予防効果が臨床試験で確認されています。その他、重症化予防効果に関する臨床試験成績も報告されています。
- お子さまが新型コロナウイルス感染症に罹患した場合、本人が学校などを休むだけでなく、保護者も仕事を休まざるを得なくなることがありますが、ワクチン接種により、これを防げる可能性があります。

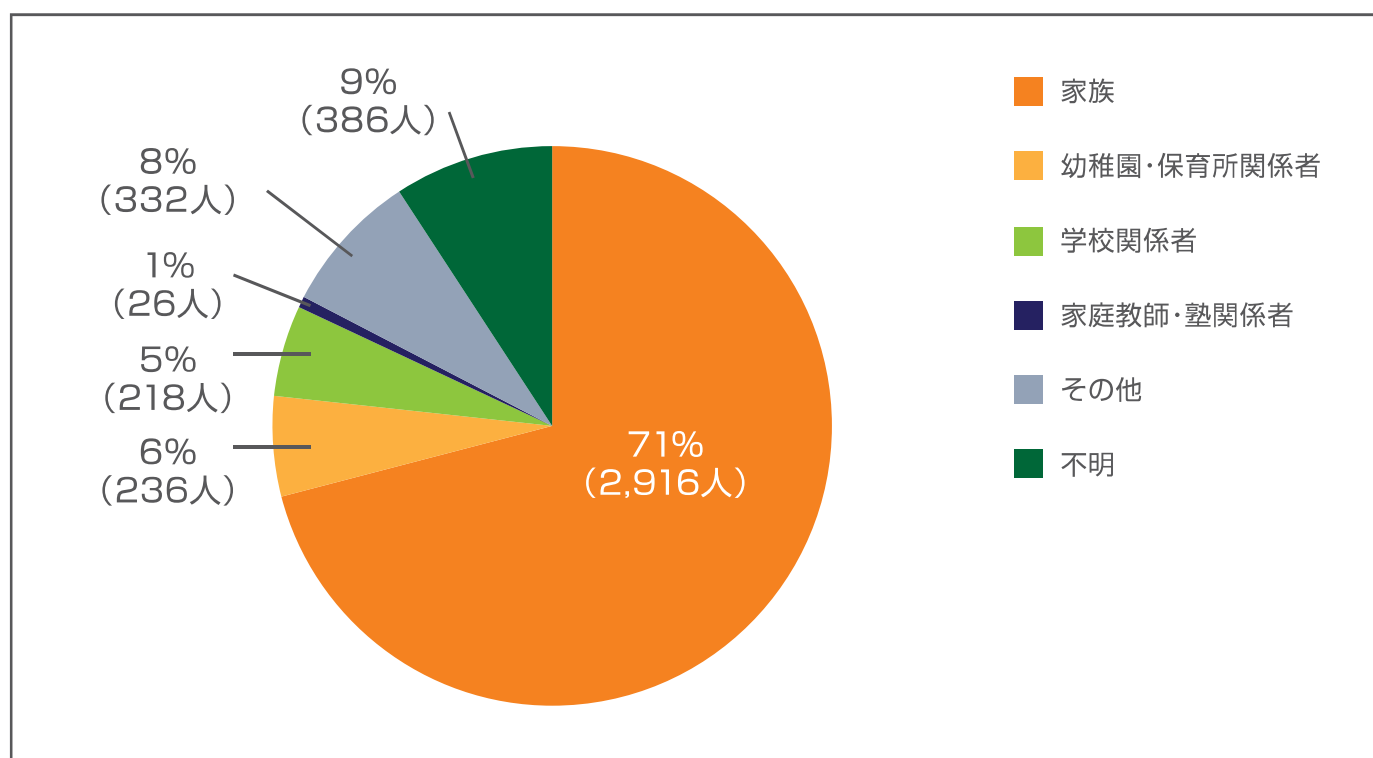
● ワクチン接種のデメリット

- 国内では小児接種は始まったばかりであり、副反応などの安全性データはまだ十分とはいえません(注射した部分の痛み、倦怠感、頭痛、発熱などはほとんどの場合2~3日で軽快するといわれています)。
- ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあります。
- 心筋炎や心膜炎があらわれることがあります。

小児を含む20歳未満の新型コロナウイルス感染では、**家庭内からの感染が大半**を占めています。

日本小児科学会によると、国内で新型コロナウイルスに感染した小児を含む20歳未満の症例のおよそ7割が家庭内からの感染によるものでした。新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐためにも、感染症対策として、まずは保護者の皆さまの接種、そしてお子さまの接種要否についてご検討ください。

小児感染に対する先行感染者の内訳(4,114人)



日本小児科学会: COVID19 日本国内における小児症例
https://www.coreregistry.jp/CoreRegistry_COVID19_CRF_Dashboard/Home/DashBoardviewer
(最終アクセス:2022年1月12日)

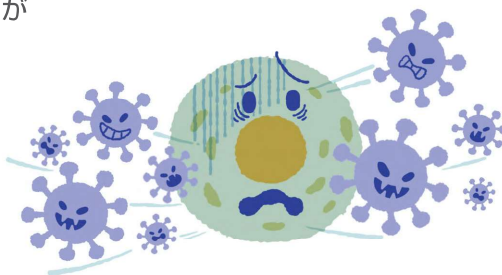
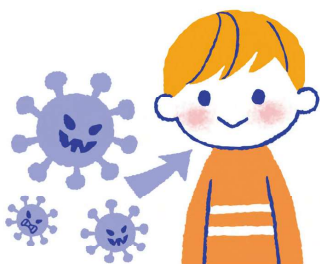
mRNAワクチンとは

コミナティ(以下、本ワクチン)はメッセンジャーRNA(mRNA)ワクチンという種類のワクチンです。

mRNAワクチンで、ウイルスのタンパク質の一部を作り、それを私たちの体内が異物と認識して攻撃する仕組み(免疫)に記憶させます。そうすることで、本物の新型コロナウイルスが体内に入ったときに、抗体がウイルスを捕まえたり、免疫細胞がウイルスに感染した細胞を攻撃して、感染症の発症を予防することができますようになります。

新型コロナウイルスの感染

新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)が体内から細胞内に侵入すると…

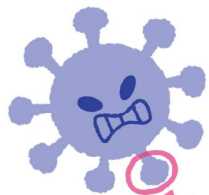


細胞内で増え、
新たなウイルスを放出します。

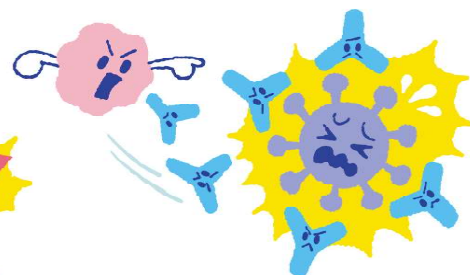
唾液や飛沫により、
他の人に感染が広がって
いきます。

mRNAワクチン

ウイルスのタンパク質の
一部を作る情報(mRNA)を
ワクチンにして、接種します。

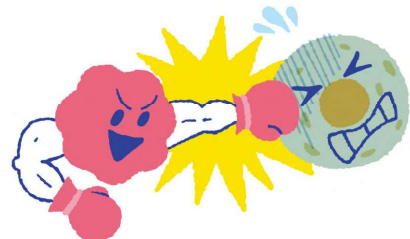


細胞内でワクチン、
タンパク質を作り、
免疫細胞が異物として
記憶します。



免疫細胞がウイルスを
捕まえる抗体を作り出します。

免疫細胞がウイルスに
感染してしまった細胞を
攻撃します。



mRNAワクチンに関するQ&A

Q1

mRNAには長期的な体への悪影響はないの？

A1

mRNAは、数分から数日といった時間の経過とともに分解されていきます。また、mRNAは、人の遺伝情報(DNA)に組み込まれるものではありません。体の中で、DNAからmRNAが作られる仕組みがありますが、情報の流れは一方通行で、逆にmRNAからはDNAは作られません。こうしたことから、mRNAを注射することで、その情報が長期に残ったり、精子や卵子の遺伝情報に取り込まれることはないと考えられています。

参考文献

厚生労働省:新型コロナワクチンQ&A

<https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/0008.html>(最終アクセス:2022年1月12日)

Q2

変異株の新型コロナウイルスにも効果はありますか？

A2

一般論として、ウイルスは絶えず変異を起こしていくもので、小さな変異でワクチンの効果がなくなるというわけではありません。それぞれの変異株に対するワクチンの有効性がどのくらいあるのかについても、確認が進められています。

参考文献

厚生労働省:新型コロナワクチンQ&A

<https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/0012.html>(最終アクセス:2022年1月12日)

本ワクチンの安全性(副反応) (海外データ)

小児への本ワクチン接種においても、**副反応の種類や発現頻度は成人と大きな違いはありません**でした。

小児では、成人に比べて副反応による心身の負担が大きかったり、自分でうまく伝えられなかったりすることも考慮し、**接種への立ち会いおよびその後も、お子さまの様子に変わりがないか観察**してください。

臨床試験では、5～11歳の小児への本ワクチン接種によって、主な副反応として、下記のような症状があらわれました。注射した部位の痛みは、接種したその日にあらわれ、2日程度続くことがあります。その他の副反応は、接種した次の日にあらわれ、1日程度続くことがあります。

あらわれた頻度	副反応の種類
50%以上	注射した部位の痛み、疲労
20～50%	頭痛、注射した部位の発赤・紅斑、腫れ
5～20%	筋肉痛、関節痛、寒気、発熱、下痢

承認時評価資料

接種後(特に、接種直後～数日間)はお子さまの体調に注意してください。

お子さまに、上記のような症状や、いつもと違う体調の変化や異常があれば、接種を受けた医療機関等の施設の医師、看護師またはかかりつけ医へ相談してください。

その他の副反応、ショック、アナフィラキシーや心筋炎、心膜炎などに関する注意については、「ファイザー新型コロナウイルスワクチンの接種を受ける方とご家族の方々のためのサイト」(サイトのURLは8頁をご参照ください)、小冊子「新型コロナウイルス ワクチン コミナティを接種されるお子さまと保護者の方へ」もご確認ください。

本ワクチンの有効性 (海外データ)

小児への本ワクチン接種においても、**新型コロナウイルスに対する中和抗体の量(抗体価)は成人と同様であった**ことが確認されています。

5～11歳の小児に対する本ワクチンの2回目の接種から1ヵ月の、新型コロナウイルスに対する中和抗体価は、16～25歳の成人へのワクチン接種と同様でした。

承認時評価資料

ワクチン接種を受けた後もお子さまに守ってほしい大切なこと

(保護者の方からお子さまにお伝えください)

ワクチン接種を受けた、受けていないといったことで、**差別的な扱いをすることはあってはなりません。**

ワクチン接種を受ける、受けないはあくまでご本人、保護者の意思に基づくものです。ワクチン接種を受けた、受けていないといった理由で、お友達や周りの人を悪く言ったり、いじめたりすることがないように、お子さまとのコミュニケーションをお願いいたします。



ワクチン接種を受けた後も、**基本的な感染予防対策を続けることが大切です。**

本ワクチンは新型コロナウイルス感染症の発症を予防するものです。
本ワクチン接種後も基本的な感染予防対策(マスク着用、密集、密接および密閉の回避、手洗いや咳エチケット等)が必要です。これらの点をお子さまにお伝えください。



本ワクチンに関するさらなる情報について

本ワクチンに関する情報について、「ファイザー新型コロナウイルスワクチンの接種を受ける方とそのご家族の方々のためのサイト」にて公開しております。

同サイトでは、「新型コロナワクチン コミナティを接種されるお子さまと保護者の方へ」もご覧いただくことができます。



左の二次元バーコードもしくは
下記URLよりアクセスし、ご参照ください。

<https://www.pfizer-covid19-vaccinated.jp>

BIONTECH



製造販売元：ファイザー株式会社

ファイザーとBioNTechの新型コロナワクチンは、BioNTech独自のmRNA技術を基に両社により共同開発されたmRNAワクチンです。